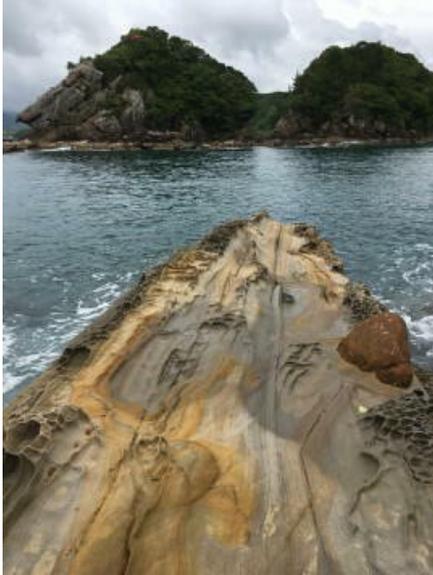

達人リコメンドの四国～見残し・見直し・見落とし

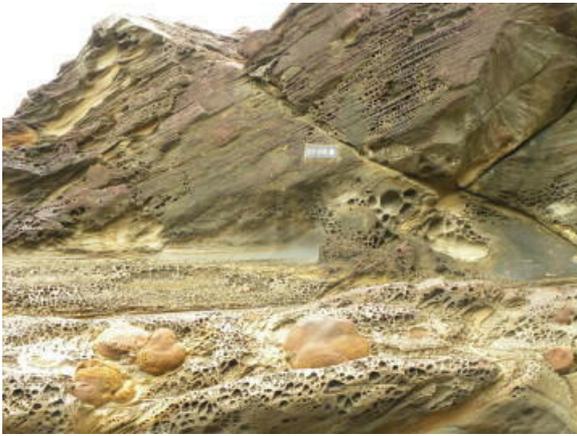
1. 見残し(竜串)

我が家の恒例行事、GWの四国旅行ですが、ほぼ10年も続けば、そろそろネタ切れ。島嶼部分を除いて有名処は、クリアしているので、龍馬パスポート片手に見残した部分と、もう一度、見たい食べたい体験したい部分を巡る旅を計画。宿泊先は、中村、清水、高知、室戸と太平洋に沿って高知県を横断することにしました。



まずは、竜串・見残しから。お仕事含めて中村まで行くことは多かったですのですが、竜串だけは、通過したり時間の都合で断念したりで、かろうじて海底館だけは入館したのですが、今回はこの竜串をメインの目的地としました。竜串という地名の由来は、この海岸の背後にある「臥竜山」の竜臥し(たつふし)から、見残しの由来は弘法大師が四国での修行の折、余りの険しさに見残したことからだそうです。そりゃ、四国を歩き回って最初に修行したお大師様でも行ってない場所ですから、肩書だけ四国観光達人には無理な話かも。





竜串からグラスボートに乗って海底の珊瑚を見学、見残し海岸に上陸して凸凹の奇岩の中を順路に従い歩きます。最後は、展望台から竜串を一望して、四国観光のゴール地点に到達した気分で感慨無量。あとは、竜串に戻って、海洋館のマンボウさんにご挨拶からの、足摺岬。もう一つ見残した観光名所へと向かいます。



2. 見残しその2(足摺岬)

四国最南端の足摺岬、天狗の鼻から断崖絶壁に立つ灯台を見て、金剛福寺で南無大師遍照金剛というのが定番ですが、唐人駄馬(巨石群)まで行く人はあまり居ないと思います。イギリスのストーンヘンジみたいに、何か宇宙への発信があるのか、弘法大師の教えに基づく宗教的構造物かはわかりませんが、大きな岩が集まった凄い遺跡が足摺に残っているのです。亀石・鬼の包丁石・祭壇石に再生のエリア。最近のパワースポット・ブームから訪れる人が増えているようですが、巨石に登れば太平洋の絶景が展望できる隠れ名所です。また、土佐清水に来ても宿泊した経験が無いの

で、今回は、名物の清水さばを美味しくいただける「民宿いさりび」をセレクト。これで足摺では思い残すことは無い・・・と踏んでいましたが、天候の加減で船が出港できず夕食のメニューは「とろガツオ」のお刺身に変更です。





「ウ～はりまや橋！」じゃなくて、ガツカリですが、とろガツオもしっかり脂がのって美味しいけど、ここで1つ思い残したので、もう一度、清水さばのお刺身にチャレンジしたいと思っています。夕食で食べた天然ぶりの塩焼き、翌朝のサバの干物も美味美味と感動しましたが、見残しですかね。

3. 見直し(四万十川)

GW初日(5/3)は午前4時出発。淡路、徳島、川之江経由で窪川に到達、中村まで太平洋沿いを走るか、四万十川の流れを下るか迷いましたが、清流を選択。久々に沈下橋を見て、十川の「流しこいのぼりの里」を訪問。四万十川にワイヤーロープを渡して、こいのぼりを大空に泳がすというビジュアル。私は勝手に「目刺しこいのぼり」と呼んでいます、この時期の風物詩として有名です。ただ、下から眺めることはあっても、上から眺めたことありませんので、今回は対岸の展望台にて見直し。こいのぼりと清流が見事にマッチして壮大な風景を見せていただけたと感謝しております。



続いてイベント会場で買った地鶏と生姜をソース風味で炒めた「ガリ焼き」と「筍寿司」を沈下橋が見える河原でいただいて、平家の落人伝説が残るJR半家駅を訪問。締めは、暑さ日本一を記録した江川崎の道の駅にある山間屋さんのケーキで満足満足。このケーキについては、今回たくさんの旅のヒントを与えてくれた高知の我が良き友から教えていただきました。



4. 見直しその2(中村)

江川崎から四万十川の流れて中村を目指します。大雨に見舞われ良い写真が撮れませんが、有名な今成橋(佐田の沈下橋)から、安並の水車公園、一条神社に不破八幡宮。夜は中村の繁華街(?)に出て塩タタキに鰻のかば焼き、川エビのから揚げなど四万十の恵みで乾杯です。



中村で宿泊するなら、食事付きの民宿がお勧めですが、GWは仕入れの関係上、準備ができないので、ビジネスホテル泊。なかなか訪問する機会が無かった繁華街に繰り出しましたが、予約なしでお店に入るのは至難の業です。実際、3軒断られて、いったお店も「料理が出るまで時間がかかる」という条件付きで入りましたので、次回は(?)見直しが必要です。





清水から戻って、四万十川学遊館を訪問。トンボ王国のカキツバタ、とんぼ館、さかな館を巡って、四万十のお魚・アカメさんと背比べです。こちらも初めて訪問してから10年以上過ぎましたが、当時と比べて美しく整備されています。



続いて、黒潮町の入野の浜のTシャツアート展を見学。砂浜一面が物干し竿(実際はロープですが)に並ぶ白いTシャツで壮観。乾いているか確認すると、前日の大雨で湿り気味でしたが、強烈な風で乾きが早いかも。但し、高波で洗われて再度水浸しになるかも知れません。



5. 見直しその3(伊野・高知)

高知の清流として、四万十川ばかりがもてはやされていますが、水質的にも流れる地域など考えると仁淀川の方が優れているのではと、勝手に思っています。今回も余裕があれば、仁淀川を遡上するなんて選択も考えました。中追溪谷でほっこり過ごした経験もありますが、温泉施設はどうなっているのでしょうか。

伊野の仁淀川橋で、紙のこいのぼり流しのイベントが開催されていたので寄り道。ただ、これが原因で周辺道路が大渋滞。なんとか駐車場に入れて河原に下りましたが、橋の上から見るべきですね。ちょっと、はりまや橋・・・ですかね。続いて、紙の博物館を訪問、時間の関係で紙漉き体験は見送りましたが、次回期待ですね。



高知に到着。今回のスペシャルは、地元の我が良き友との乾杯です。お洒落な居酒屋、おにぎりの店、餃子の屋台と3軒ハシゴで、塩たたき、百合根のコロッケ、フルーツマト、鶏のから揚げ、メ

ヒカリ、おむすび、ギョーザと美味しい高知を満喫。ビールは、「たっすいがはいかん」の麒麟に決まり。



たくさんの地元情報を教えていただいて、おまけに芋屋金次郎謹製の揚げたて芋ケンピをお土産にいただきました。おかげで、いつもと違う楽しい高知の夜になり大いに感謝、しっかりと高知の夜を見直せました。

6. 見落とし(野市・安芸)

高知から室戸への移動。見落としていた場所が、のいち動物公園。田舎の動物園ですしレアものを飼育してないと高を括っていましたが、狭い敷地ながらも、清掃が行き届いているし、早い時間に入園したからか動物たちも生き生き。カワウソにビーバー、チンパンにキリンさん、珍しいのはハシビロコウという目つきの悪い鳥。居心地が良いし屋台も出ているので、しっかり時間を費やしてしまいました。



続いては、安芸の伊尾木洞。国道からすぐの場所にあるのに、観光地として見落とされていた場所です。龍河洞みたいな鍾乳洞じゃなくて波の浸食でできた単なる洞穴。川に沿って、というか河川敷、いや小川に沿って歩く散歩道です。苔むす岩に、シダの群生、ひんやりしていて心地良いのですが、「マムシに注意」の看板の連続。おっかなくてゆっくりできないのが欠点です。けど、看板を見

て、探検を見送りそうになりました。



7. 身のこなし(室戸・阿南)

今回の最終目的地は、室戸。岬の看板と記念撮影、いつもの民宿「徳増」へ。キンメ鯛、流れ子、カンパチの刺身、フキ、タケノコ、イタドリ、山菜の天麩羅と別注のカツオのタタキ。地産地消、太平洋の恵みをいただいております。



翌日は、大阪まで帰るだけですが、得意の身のこなしで、帰路はさばせ大福を買って、日和佐で干物購入。阿南のニャンコの神様、お松大権現にお詣りして、おさかな食堂「弘伸丸」にて、コスパ最高のお刺身定食に舌鼓。道の駅公方の里ながわで休憩して13時出発。GW最終日だというのに渋滞は、徳島市内のみで、淡路道・阪神高速ス～イスイの身のこなしで、門真到着15時半。無事、見残し・見直し・見落としの旅を終えました。





さてさて、来年はどこをリコメンドしましょうか・・・



平成29年5月13日記(旅は5月3日～7日)

[Top](#)
[トップ](#)
[↑](#)

[Back](#)
[戻る](#)

[達人リコメンドの四国～お城巡り](#)